ウェブ版はこちら。データとレーティングはウェブ版の最新版を正とする
alphascope.cc/ja/reports/global-weekly-2026-w43

グローバルマクロ週報 · 2026年第43週（10/19〜10/23）

ブレント原油は6.2%上昇、ハンセン指数は4.5%下落、MSCI ACWIは0.6%下落
AI投資への懸念がアジアと欧州の株式の重荷となり、原油高で利上げ観測は高水準を維持した

今週のMSCI ACWI（ドル建て）は0.60%下落し、MSCI新興国ETFは1.34%下落した。メタの決算後に半導体株が下落し、ハンセン指数は4.52%、日経平均は4.03%、ユーロ・ストックス50は2.19%下落した一方、S&P500の下落は0.47%にとどまった。ブレント原油は6.24%上昇の116.72ドルと4月29日以来の高値で清算され、金は4.14%下落した。米10年債利回りは9bp低下の5.00%、ドル指数は101.81でほぼ変わらずであった。来週はFRB、カナダ銀行、ECB、日銀が順に政策を決定し、ブラジルでは10月25日に決選投票が行われる。

世界株（MSCI ACWI、ドル建て）	ユーロ圏・ストックス50	日本・日経平均	香港・ハンセン	ドル指数
-0.6%	-2.2%	-4.0%	-4.5%	101.81
終値 156.80	終値 6,068.22	終値 62,693.16	終値 23,093.37	週間 -0.03

ブレント原油
+6.2%
終値 116.72

01

今週の要点

メタの設備投資見通し引き上げを受けて半導体株が下落、アジア株の下げは米国を上回った

メタは10月21日の取引終了後に7〜9月期決算を発表し、2026年の設備投資見通しの下限を1350億ドルに引き上げた（レンジは1350億〜1450億ドル）。同四半期のフリーキャッシュフローはマイナスとなった（AlphaScope 米国株週報、Trefis）。10月22日にメタは6.98%、フィラデルフィア半導体指数は6.72%、ナスダック100は2.90%下落した（Kiplinger、株価はYahoo!ファイナンス）。同日のアジア市場は先に反応し、ハンセン指

数は3.03%、ハンセンテック指数は5.03%（東方財富）、KOSPIは3.52%、日経平均は2.65%下落した。10月23日の日経平均は6万2693円で引け、7月30日以来の安値となった（松井証券）。

週間ではハンセン指数が4.52%、日経平均が4.03%、台湾加権指数が2.27%（10月23日は休場）、KOSPIが2.08%下落した。欧州も軟調で、ユーロ・ストックス50とCAC40はともに2.19%、DAXは1.72%下落した。ユーロ圏の10月総合PMI速報値は51.9と、前月の53.1と市場予想の52.7を下回った（Teleborsa）。米国の下落は大型ハイテク株に集中し、均等加重S&P500は1.14%、ラッセル2000は約2.0%上昇、S&P500は0.47%下落した。この対比は、売りの中心がリスク選好全般ではなくAI投資の規模と資金調達にあったことを示すものとみられる（推測）。半導体比率の高いアジアの指数は影響をより強く受けた（推測）。

フーシ派の攻撃主張と米在庫減少を受けてブレント原油は6.2%上昇、貴金属は下落

ブレント原油は6.24%上昇の116.72ドルとなり、10月22日と23日にそれぞれ4.00%、3.14%上昇した。フーシ派はサウジアラムコのヤンブー施設とシャイバ油田への攻撃を主張したが、サウジ当局は直ちには確認しなかった。市場は米国によるイランへの行動の可能性も意識した（CNBC、Oil Monitor）。EIAの統計では米原油在庫は306万バレル減少し、予想の約82万バレル減を上回る減少幅となった。

WTIの期近つなぎは週間で1.83%上昇の103.27ドルであるが、11月限は10月20日に満期を迎えており、前週末の基準値は11月限である。同じ12月限で比較すると99.02ドルから103.27ドルへ4.29%上昇した。ブレントとWTIの価格差は約13.45ドルである。

原油高で金利が高水準にとどまるとの見方が強まり、貴金属は下落した。金先物は4.14%安の4007.90ドル、現物は4000ドルを割り込み7月中旬以来の水準となり、週間の下落率は6月以来の大きさとなった。銀は5.76%下落した。ロイターは、ハイテク株安に伴う追証への対応も貴金属の売りにつながったと報じた（CNBC）。

米国債利回りは小幅低下、市場はFRB・ECB・日銀の来週の据え置きと12月の利上げを織り込む

10月23日時点（FRED）で米2年債利回りは5bp低下の4.69%、10年債は9bp低下の5.00%、30年債は10bp低下の5.33%であった。10年債の低下は主に実質金利（8bp低下の2.66%）によるもので、ブレークイーブンは1bp低下の2.34%にとどまった。10年債利回りは木曜に5%を下回り、金曜に約5bp上昇した。10月のミシガン大学消費者信頼感指数は48、1年先のインフレ期待は4.7%であった（CNBC）。

来週の中銀に対する市場の見方（10月23日時点）：CMEフェドウォッチではFRBの10月据え置き確率が約92%、12月利上げ確率は7〜8割程度（報道により71%、78%）であった。ロイターの10月16〜20日の調査では、エコノミスト100人のうち94人が10月据え置き、全員が12月利上げを予想した（Mitrade）。ロイターの10月21〜23日の調査では、34人のうち19人がカナダ銀行の0.25ポイント利上げ（2.50%）を予想し、金利先物の織り込みは約4分の3であった。カナダの9月インフレ率は3.1%である（Kitco）。ロイターの10月5〜8日の調査では、73人のうち70人がECBの10月の2.50%据え置き、64人が12月利上げを予想した（Global Banking and Finance）。日銀は10月に1.25%で据え置くとの見方が大勢で、10月利上げの織り込みは約2%である。ロイターの10月20〜21日の調査では、78人のうち54人が今四半期中の1.50%への利上げを予想した（StockWire X）。

今週公表のインフレ指標は総じて予想以上であった。英国の9月CPIは前年比3.5%と予想の3.4%を上回り、コアは2.8%であった（Babypips）。日本の9月コアCPIは前年比2.1%と予想に一致し、8月の1.7%から上昇した（Trading Economics）。中国は10月20日にLPRを据え置き、7〜9月期GDPは前年比4.5%増であった（Trading Economics）。

> 今週の株式市場の主な重荷はAI投資の規模と資金調達であり、商品市場と金利市場ではエネルギー供給リスクとそのインフレ・利上げ観測への影響が主な変動要因であった。

02

世界の株式市場

週間騰落（現地通貨建て）

メキシコ・IPC +1.4% 年初来 +8.7%	スイス・SMI +0.5% 年初来 +9.0%	豪州・ASX200 -0.1% 年初来 +0.9%	ブラジル・ボベスパ -0.2% 年初来 +27.3%	米国・S&P500 -0.5% 年初来 +11.4%	世界株（MSCI ACWI、ドル建て） -0.6% 年初来 +11.5%
中国・上海総合 -0.7% 年初来 -7.0%	カナダ・TSX -1.1% 年初来 +12.9%	新興国株（MSCI EM、ドル建て） -1.3% 年初来 +13.9%	ドイツ・DAX -1.7% 年初来 +2.8%	英国・FTSE100 -1.8% 年初来 +7.6%	韓国・KOSPI -2.1% 年初来 +31.7%
フランス・CAC40 -2.2% 年初来 -4.5%	ユーロ圏・ストックス50 -2.2% 年初来 +4.7%	台湾・加権指数 -2.3% 年初来 +59.0%	インド・Nifty50 -2.4% 年初来 -13.5%	日本・日経平均 -4.0% 年初来 +24.5%	香港・ハンセン -4.5% 年初来 -9.9%

各国指数は現地通貨建て。MSCI ACWI と新興国（EEM）はドル建て ETF。

現地通貨ベースでは、メキシコIPC（+1.38%）とスイスSMI（+0.49%）が上昇し、豪ASX200（-0.13%）とブラジル・ボベスパ（-0.17%）はほぼ変わらずであった。ハンセン指数（-4.52%）、日経平均（-4.03%）、インドNifty50（-2.36%）の下落が大きかった。18指数のうち上昇は2指数のみである。香港は10月19日、インドは10月20日、台湾は10月23日が休場であった（台湾証券取引所）。

ドル建てに換算すると、日経平均は約3.0%下落（円+1.05%）、KOSPIは約1.0%下落（ウォン+1.13%）、FTSE100は約0.8%下落（ポンド+0.99%）、DAXは約1.7%下落（ユーロ+0.07%）、SMIは約1.5%上昇（スイスフラン+0.97%）、ASX200は約1.3%上昇（豪ドル+1.46%）となる。メキシコIPCの上昇はペソの1.49%安で相殺され、ドル建てでは約0.1%の下落である。ボベスパはYahooの為替換算で約0.8%上昇となる。

ブラジルではボベスパ指数が金曜に20万5083で引けた。決選投票前最後の取引日の時点で、Datafolhaの世論調査ではルラ氏とフラビオ・ボルソナロ氏が有効票の各50%、Real Time Big Dataではフラビオ氏52%、ルラ氏48%と、いずれも接近した水準にある（Trading Economics、Poder360）。投票はまだ行われていない。

03

主要通貨の対ドル相場

対ドルの週間騰落

豪ドル +1.5% 年初来 +4.8%	ウォン +1.1% 年初来 +8.4%	円 +1.1% 年初来 -0.1%	ポンド +1.0% 年初来 -0.5%	スイスフラン +1.0% 年初来 -3.4%	レアル +0.9% 年初来 +8.4%
人民元 +0.2% 年初来 +4.8%	ユーロ +0.1% 年初来 -4.5%	ルピー -0.2% 年初来 -5.2%	メキシコペソ -1.5% 年初来 -4.0%		

プラスは当該通貨の対ドルでの上昇を示す。

通貨	レート	対ドル・週間	対ドル・年初来
豪ドル	0.7020	+1.5%	+4.8%
ウォン	USD/1,325.99	+1.1%	+8.4%
円	USD/156.49	+1.1%	-0.1%
ポンド	1.3404	+1.0%	-0.5%

通貨	レート	対ドル・週間	対ドル・年初来
スイスフラン	USD/0.8198	+1.0%	-3.4%
レアル	USD/5.0499	+0.9%	+8.4%
人民元	USD/6.6779	+0.2%	+4.8%
ユーロ	1.1221	+0.1%	-4.5%
ルピー	USD/94.71	-0.2%	-5.2%
メキシコペソ	USD/18.72	-1.5%	-4.0%

ドル指数は週末 101.81（-0.03）。USD/ 表記は1ドルあたりの通貨量。

主要10通貨のうち8通貨が対ドルで上昇したが、ドル指数は101.81（-0.03）でほぼ変わらずであった。個別通貨の上昇とドル指数の差には、Yahooの為替レートとドル指数の終値時点の違いが一部反映されている（推測）。

豪ドル（+1.46%）、ウォン（+1.13%）、円（+1.05%）の上昇が大きかった。円は156.49円で引け、株式の変動が高まる中で資金が円に向かったとみられる（推測）。ポンド（+0.99%）は1.3404で引け、英国のインフレ率が予想を上回ったことが支えとなった（推測）。スイスフラン（+0.97%）は0.8198で引けた。ユーロ（+0.07%）は1.1221で引け、PMIの下振れ後も変動は小さかった。人民元（+0.19%）は6.6779で引けた。

メキシコペソ（-1.49%）の下落が最大で、18.72で引け、日中には18.855まで下落した。現地メディアは7週連続の下落になる見通しとし、米墨金利差の縮小に伴うキャリートレードの解消、中東情勢、国内インフレの上振れを要因に挙げた（Excelsior）。インドルピーは小幅安（-0.20%）であった。

ブラジルレアルはYahooベースで0.92%上昇の5.0499であった。ブラジル現地のスポット市場ではドルは10月23日に4.993レアルで引け、同日は0.90%下落した（Poder360）。Yahooのこの通貨ペアの日付は1取引日程度遅れており、本週報の表はYahooベースを用いている。

04

金利と金融政策

中央銀行	政策金利	直近の決定	次回会合
FRB	3.75～4.00%	9月16日 0.25ポイント利上げ（12対0）	10月27～28日
ECB（預金ファシリティ金利）	2.50%	9月10日 0.25ポイント利上げ	10月29日
日本銀行	1.25%程度	9月18日 0.25ポイント利上げ（7対2）	10月29～30日
イングランド銀行	3.75%	9月17日 据え置き（6対3、3人が利上げ主張）	11月5日
スイス国立銀行	0%	9月24日 据え置き	12月10日
豪準備銀行	4.60%	9月29日 0.25ポイント利上げ（全会一致）	11月3日
カナダ銀行	2.25%	9月2日 据え置き	10月28日
中国人民銀行（1年 / 5年 LPR）	3.00% / 3.50%	10月20日 据え置き	11月20日（LPR公表）
インド準備銀行	5.50%	10月7日 0.25ポイント利上げ（全会一致）	12月4日
ブラジル中銀（Selic）	13.75%	9月16日 0.25ポイント利下げ	11月4日
メキシコ中銀	6.50%	9月24日 据え置き	11月5日

各中央銀行の公表資料に基づき、発行時に確認。

米国債	週末値	週間変化	年初来
米2年債	4.69%	-5bp	+122bp
米10年債	5.00%	-9bp	+82bp

米国債	週末値	週間変化	年初来
米30年債	5.33%	-10bp	+49bp
10年実質金利（TIPS）	2.66%	-8bp	+73bp

10年国債利回り（月次）	最新月	利回り	前月比
オーストラリア	2026-09	5.28%	+27bp
英国	2026-09	5.24%	+25bp
フランス	2026-09	4.48%	+45bp
イタリア	2026-08	3.99%	+11bp
カナダ	2026-09	3.88%	+21bp
ドイツ	2026-09	3.47%	+28bp
日本	2026-09	3.05%	+11bp

OECD の月次データ（FRED 経由）で、通常1〜2カ月遅れ。水準の確認用で、今週の動きは下の債券 ETF と本文を参照。

債券 ETF	週間	1カ月	年初来
米長期国債（TLT）	+1.6%	+1.5%	-3.4%
米国外国債（BWX、ヘッジなし）	+0.4%	+0.7%	-3.3%
米ハイイールド債（HYG）	+0.2%	-0.9%	-0.1%
米国外投資適格債（BNDX、ヘッジあり）	+0.2%	+0.9%	-0.2%
新興国ドル建て債（EMB）	+0.1%	-0.6%	-1.0%

債券価格と利回りは逆に動くため、ETF の下落は利回りの上昇を意味する。

米国債：10月23日時点で10年債と2年債の利回り差は35bpから31bpに縮小し、小幅なフラット化となった。年初来では2年債が122bp、10年債が82bp上昇している。MOVE指数は2.21上昇の103.31、VIXは0.54低下の19.45であった。

その他の国債：OECDの月次データによると、9月の10年債利回りは豪州5.28%、英国5.24%、フランス4.48%、カナダ3.88%、ドイツ3.47%、日本3.05%である。イタリアの最新月は8月（3.99%）である。これらは水準の確認用である。債券ETFは週間で上昇し、米長期国債（TLT）は1.61%、米国外国債（BWX、ヘッジなし）は0.42%、米ハイイールド債（HYG）は0.25%、新興国ドル建て債（EMB）は0.14%上昇した。

中銀：過去2カ月にFRB、ECB、日銀、豪準備銀行、インド準備銀行が利上げした。金曜までの今週の表内の決定は10月20日の中国LPR据え置きのみであり、ブラジル中銀は表内で唯一の利下げ局面にある。来週の決定は今週の要点に市場予想として記載し、表にはまだ反映していない。

05

商品・暗号資産

週間騰落（ドル建て）

ブレント原油 +6.2% 年初来 +91.8%	WTI 原油 +1.8% 年初来 +79.9%	銅 -0.8% 年初来 +15.0%	イーサリアム -1.0% 年初来 -19.6%	ビットコイン -1.2% 年初来 -7.4%	トウモロコシ -3.8% 年初来 +3.6%
金 -4.1% 年初来 -7.7%	小麦 -5.4% 年初来 +23.3%	銀 -5.8% 年初来 -23.4%	米天然ガス -15.3% 年初来 -28.4%		

資産	直近	週間	1カ月	年初来
ブレント原油	116.72	+6.2%	+13.2%	+91.8%
WTI 原油	103.27	+1.8%	+12.1%	+79.9%
銅	6.48	-0.8%	-3.0%	+15.0%
イーサリアム	2,384.08	-1.0%	-11.2%	-19.6%
ビットコイン	81,074.19	-1.2%	-3.9%	-7.4%
トウモロコシ	456.00	-3.8%	-13.8%	+3.6%
金	4,007.90	-4.1%	-7.2%	-7.7%
小麦	625.00	-5.4%	-11.8%	+23.3%
銀	53.71	-5.8%	-16.6%	-23.4%
米天然ガス	2.64	-15.3%	-12.7%	-28.4%

原油・天然ガス・金属・穀物は期近先物。

原油：ブレントは6.24%上昇の116.72ドルで、年初来の上昇率は91.8%である。今年この水準を上回る終値は3月31日と4月29日のみである（Yahoo!ファイナンス）。ブレントは今週限月交代がなかった。WTIの期近つなぎの週間騰落率には限月交代の影響があり、同一限月の上昇率は今週の要点に記載した。

天然ガス：米天然ガスは15.28%下落の2.64ドルであった。10月下旬まで穏やかな気温が予想され、暖房需要が限られるとの見方が背景にある（推測）（Trading Economics）。

金属：金は4.14%安の4007.90ドル、銀は5.76%安の53.71ドル、銅は0.84%安の6.48ドルであった。

農産物：小麦は5.37%、トウモロコシは3.85%下落した。

暗号資産：ビットコインは1.15%安の8万1074ドル、イーサリアムは1.02%安の2384ドルであった（基準日は10月18日）。いずれも10月22日のリスク資産安の局面で下落した。

06

来週の注目材料

日付	イベント	注目点
10/25	ブラジル大統領選の決選投票	Datafolhaの世論調査では両候補の有効票が各50%で拮抗し
10/28	カナダ銀行の金融政策決定、豪州の9月および7〜9月期CPI	ロイター調査では34人のうち19人が2.50%への利上げを予
10/28	FRBの金融政策決定（10月27〜28日）、アルファベット、マイクロソフトの決算	CMEフェドウォッチでは据え置き確率が約92%、12月利上
10/29	ECBの金融政策決定	ロイターの10月上旬の調査では73人のうち70人が2.50%据
10/29	米7〜9月期GDP速報値と9月PCE物価指数、アマゾン、インテルの決算	前期のGDPは年率2.2%増、8月のコアPCEは前年比3.0%で
10/30	日銀の金融政策決定と展望レポート、ユーロ圏7〜9月期GDP	市場は1.25%での据え置きを予想し、利上げの織り込みは約

07

データの定義と出典

週間騰落率 = 今週最終取引日の終値 ÷ 前週最終取引日の終値 − 1（2026-10-19〜2026-10-23）。休場の市場は直近の取引日。

株価指数・為替・商品・暗号資産・債券 ETF は Yahoo!ファイナンス（遅延あり）、米国債利回りは FRED、その他の10年国債利回りは OECD 月次データ（FRED 経由）。

為替は各通貨の対ドルでの騰落に統一し、プラスは通貨高を示す。

AlphaScope 米国株週報第43週、Trefis：メタ（10月23日）、Kiplinger（10月22日）、東方財富：香港市場（10月22日）、松井証券：日経平均（10月23日）、Teleborsa：ユーロ圏PMI（10月23日）、CNBC：米国債（10月23日）、CNBC：金（10月23日）、Oil Monitor（10月23日の週）、Trading Economics：天然ガス（10月14日）、Mitrade：ロイター調査とFRB（10月22日）、Kitco：カナダ銀行の調査（10月23日）、Global Banking and Finance：ECBの調査（10月8日）、StockWire X：日銀（10月26日公表、10月23日以前の調査と織り込みのみ引用）、Babypips：英CPI、Trading Economics：日本コアCPI、Trading Economics：中国LPR（10月20日）、Trading Economics：ボベスパ（10月23日）、Poder360（10月23日）、Excelsior：ペソ（10月23日）、台湾証券取引所。ドル建てリターンは指数と為替の週間変化率を掛け合わせた推計である。WTIの同一限月の上昇率はYahoo!ファイナンスのCLZ26の清算値による。中銀の表は10月23日時点の状態である。本号は2026年11月2日に遡って発行したものであり、本文は報告週の金曜の取引終了前に公表された情報のみを用いている。

本週報は公開市場データに基づくリサーチ資料であり、一般の読者を対象としている。個人の財務状況を考慮したものではなく、投資助言を構成するものではない。データには遅延があり、原資料の数値が優先される。

データ時点 2026-10-23 · 雅虎财经（股指、汇率、商品、加密资产、债券 ETF）；FRED（美债收益率、OECD 各国 10 年期国债收益率）

AlphaScope · alphascope.cc/ja/reports/global-weekly-2026-w43 · 2026-11-02 作成

財務データは SEC EDGAR の原資料に基づく。株価データには遅延があり、出典は各レポートに記載している。

レーティングはすべての読者を対象とするリサーチ上の見解であり、特定の個人に対する売買の推奨ではない。投資にはリスクが伴う。投資判断は読者自身の責任において行われたい。